

市指定

所在地：大山新

あさがおがたえんとうはにわ

朝顔型円筒埴輪

北野金倉山山麓から出土した埴輪である。通常埴輪は古墳の周囲や埋葬主体部付近で出土するが、この埴輪が出土した地点は古墳らしき盛土は確認されていない。

埴輪は焼成がよく、内外面の刷毛目調整も明瞭に残っている。口縁部が一部欠損しているものの、全体的に保存状態は良好である。

形式から見て、古墳時代後期初頭（5世紀末～6世紀前葉）に製作されたと見られる。当地の古墳造営の在り方を考える上で、重要な資料である。

高さ70cm、胴部最大径32cm。

